

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学経済学部4年 寺尾 光平

■留学の目的

まず留学の目的は、中国の文化・生活スタイルを学び日本との差を理解することで、インバウンドビジネスにおいて中国からの集客を活性化するために何をすればよいかを考える材料を得たかったということである。

①

【参加前】

私は中国の文化や生活を本やインターネットの情報以外から知ることがなかった。そのため、中国の経済や文化、社会問題などの情報も、文字で記憶するだけで彩りや実感性がないものであった。

【参加後と変化】

杭州、上海、蘇州、南京などを訪れてみてどれほど中国の都市が賑わっているかを実感することが出来た。そして今後の更なる経済発展の兆しを垣間見られた体験、また一方で中国と比べた日本の良さを再認識できた体験を通し、日本のインバウンドビジネスの可能性を強く感じられた。そのため、中国からの訪日客をさらに深く洞察したいという意欲がわいた。

②

経済的な側面での経験

●例えばレストランの料金では、驚くほど安い価格から日本の老舗と変わらない高価格までがあることを確認できた。そして、どの価格帯のレストランにも必ず多数のお客がいたという状況も見て取れ、経済的格差が確かに存在していることを認識できた。

●レストランはどの店も非常に多くの客がおり、スタッフがいつもフル稼働しているように感じられたことが多かった。そのため、丁寧さを犠牲にし、スピードを重視した顧客対応をしているようにも思われた。

●高鉄やバス、地下鉄、タクシーなど交通にかかる費用は非常に安く、移動の便利さを感じられた。

政治的側面での経験

●中国滞在中、GmailやLine、Facebookなどが使えなかったことで、中国における政府規制は日常生活で実感できるレベルだと感じた。

人、社会的側面での経験

●ボランティアの学生が非常に丁寧に世話をしてくださったことに驚いた。面子を非常に重んじ、受け入れ側として失敗するようなことを避けたかったのではないかと思った。

③

毎日中国語を学ぶと共に、博物館訪問や農業についてのディスカッションなど中国のことを知る機会が多くあった。また、繁華街の散策や日本文化の授業を通して、日本のこともより深く知ることが出来た。

④

私は将来日本のインバウンドビジネスを活性化させるためのプロモーション事業に携わりたいと思っていた。結論として、今回の留学によってこの思いはさらに強まった。

我在浙江大学学习汉语了。还有、我学习场文化的区别在中国。我们想入境业务的时候文化的区别非常重要。所以、这方面的经验非常好。尤其、我对中国人的个性了解得很好。我打算利用这经验。还有、我想进一步学习中国。我谢谢中国人。